

現地視察 資料 3 - 3

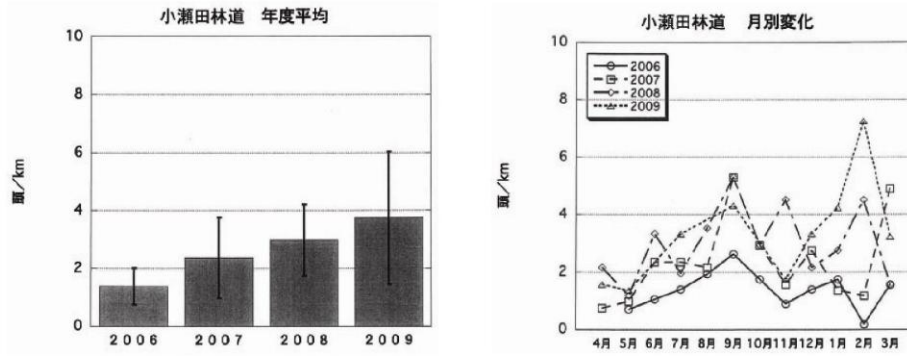
北東部地域における ヤクシカ関連の調査結果と現状等

北東部地域におけるヤクシカ関連の調査結果と現状等

項目	ヤクシカ生息密度、植生への影響、捕獲の現状
<p>植生・絶滅危惧種への影響</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安房川流域・白谷雲水峡などは絶滅危惧種のホットスポットであるが、多くの種がシカの摂食により減少している。特にヤクシマタニイヌワラビ(屋久島固有種)はほとんど見つからない状態となっている(矢原)。 ・ 萌芽への食害が出ている。農業被害が多い。 ・ 愛子岳のブナ科樹種の萌芽枝の食害率62% (H22共存事業) ・ 天文の森・小花山・白谷雲水峡の固定プロットでは30年間に林床植生の被度が50%以下に減少し、絶滅危惧種が消失した(矢原)。 ・ 愛子岳東側斜面の植生垂直分布調査によると、この10年で下層植生の構成種が変化してきており、イヌビワ、ボショウジ、ヒイラギ等の低木が減少し、ヒサカキ、アリドウシ、シキミ等の低木やベニシダ、キジノオシダ等のシダ類が増加してきている(垂直分布調査)。 ・ 町営牧場や周辺農地等への被害が多い。 ・ 白谷雲水峡の固定プロットでは30年間に林床植生の被度が50%以下に減少し、絶滅危惧種が消失した(矢原)。
<p>ヤクシカの生息密度の現状</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遺産地域内は中～高密度である。 遺産地域内(愛子岳(62.4頭/km²))はそれほど高密度ではないが、遺産地域近傍の調査結果(愛子(15.6頭/km²)、町営牧場(92.5頭)、白谷雲水峡(12.9頭)。 ・ 遺産地域外は高密度である。 町営牧場(92.5頭/km²)、白谷雲水峡(12.9/km²)。
<p>平成22年度の捕獲実績</p>	<p>遺産地域内での捕獲実績(愛子岳東側尾根等)はない。それ以外の捕獲実績は、</p> <p>【森林管理署】 神之川林道(123頭)、宮之浦林道(185頭)、白谷林道(26頭)。</p> <p>【猟友会】 宮之浦地区(256頭)、小瀬田地区(162頭)、安房地区(249頭)。</p>

屋久島生物部によるヤクシカ・モニタリング結果

【小瀬田林道におけるライトセンサスによるヤクシカ目撃数】

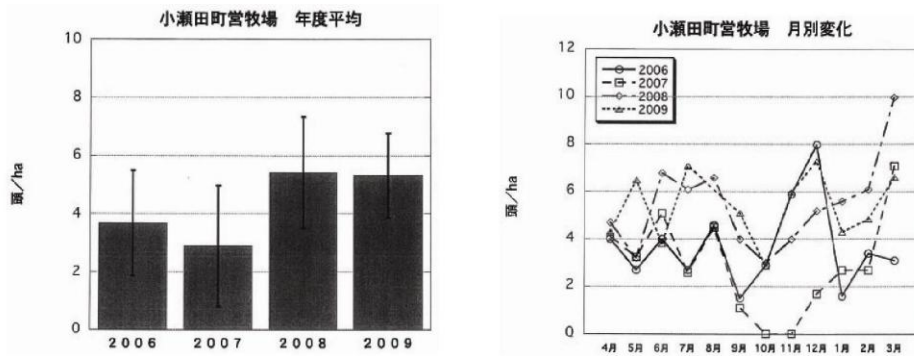


小瀬田林道では、2006～2009年まで目撃数が増え続けている。

(出典)屋久島におけるヤクシカ・モニタリング調査について(川村貴志[屋久島生物部代表]:平成22年度(第1回)屋久島野生動物保護管理ミーティング資料:2010.4.27より)

屋久島生物部によるヤクシカ・モニタリング結果

【小瀬田町営牧場(長峰牧場)におけるライトセンサスによるヤクシカ目撃数】

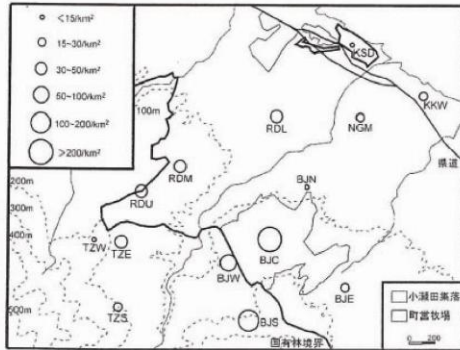


小瀬田町営牧場では、2007～2008年にかけて顕著に増加し、西部林道とほぼ同じレベルに達したが、2009年は2008年と同水準だった。

(出典)屋久島におけるヤクシカ・モニタリング調査について(川村貴志[屋久島生物部代表]:平成22年度(第1回)屋久島野生動物保護管理ミーティング資料:2010.4.27より)

屋久島生物部によるヤクシカ・モニタリング結果

幸田(京都大学)・川村(屋久島生物部)等は、2009年10月から2010年1月にかけて小瀬田集落、町営牧場(長峰牧場)、愛子岳登山口周辺にて50×4mのトランセクトを30本設定し糞塊調査を実施した。シカの推定生息密度は、 $D=N/PT$ (幸田2008:ヤクシカ排糞頻度18.66回/日[揚妻・柳原:未発表])を使用し求めた。



調査地	略称	ヤクシカ生息密度(/km ²)	調査地	略称	ヤクシカ生息密度(/km ²)
牧場	BJC	282.72	小瀬田	KSD	10.51
牧場南	BJS	124.74	林道下部	RDL	33.49
牧場西	BJW	79.86	林道中央	RDM	33.49
牧場北	BJN	5.70	林道上部	RDU	48.72
牧場東	BJE	15.67	登山口東	TZE	44.03
長峰	NGM	25.66	登山口西	TZW	14.09
空港西	KKW	24.36	登山口南	TZS	22.89

シカの推定生息密度は、牧場内部にて200頭/km²以上の高い密度となった。この値は、屋久島において最も生息密度が高いと思われる西部林道周辺(半山:114.53頭/km²、川原:131.82頭/km²、瀬切:147.37頭/km²)に比べても高い値であった(幸田他2009)。

また、町営牧場に隣接する森林では、80~125頭/km²と高い生息密度であった。町営牧場の周辺の森林では、比較的生息密度が高いことより、ヤクシカは、昼間は森林内に潜み夜間になると牧場に出没し採食をしているものと思われた。

(出典)小瀬田牧場周辺におけるヤクシカ生息密度分布(幸田良介(京都大学)・川村貴志(屋久島生物部代表):平成22年度(第1回)屋久島野生動物保護管理ミーティング資料:2010.4.27より)

屋久島生物部によるヤクシカ・モニタリング結果のまとめ

- ・ ライトセンサスによるヤクシカの目撃数は、西部林道では4.2~6.2頭/km (2006~2009年)であり、ここ数年増加しているわけではない。ここでは、おおむね3~7月と12月に目撃数が減少し、8~11月と1~2月に増加する傾向が見られる。
- ・ 小瀬田林道では、年々目撃数が増加しつつあり、2009年は2006年の倍近い3.9頭/kmに増えてきた。ここでは、おおむね3~7月と10~12月に目撃数が減少し、8~9月と1~2月に増加する傾向が見られる。
- ・ 小瀬田町営牧場では、2008年に目撃数が西部林道並の5.6頭/kmに増加し、2009年も同程度で推移している。ここでは、おおむね1~2月、5月、10月に目撃数が減少し、3月、7~8月と11~12月に増加する傾向が見られる。
- ・ 小瀬田町営牧場と愛子岳登山口付近における糞塊調査結果によると、ヤクシカの生息密度は、牧場内で200頭/km²と非常に高かった。
- ・ また、ヤクシカは昼間はあまり牧場内には現れず、夜間急激に生息数が増えるが、昼間は周辺の森林内に生息しているものと思われ、牧場と隣接する森林では、生息密度が80~125頭/km²と高かった。

(出典)小瀬田牧場周辺におけるヤクシカ生息密度分布(幸田良介(京都大学)・川村貴志(屋久島生物部代表):平成22年度(第1回)屋久島野生動物保護管理ミーティング資料:2010.4.27より)

植生垂直分布調査箇所



北東部地域の植生の特徴

(東部)

- ・調査地域は、標高 200m～愛子岳（標高 1200m）。
- ・冬期の吹き降ろし風（季節風）が強く、西部や南部より低標高の割りには冷温帯林の要素の高い森林が生育している。台風の暴風による被害を受けやすい。

(北部)

- ・調査地域は、海岸林～高塚山（標高 1400m）。
- ・標高の割りには積雪寒冷の影響を受け、冷温帯林の要素の高い森林が、低標高から現れる。

植生垂直分布調査結果（ヤクシカ被害）－10年間の経年変化－

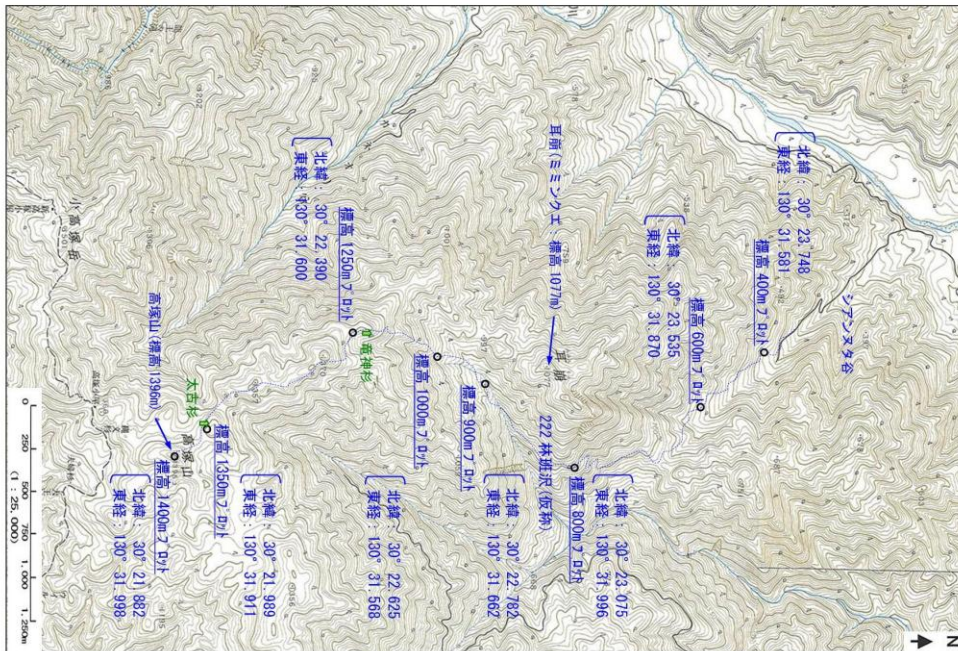
(東部)

- ・低～中標高域の照葉樹優占林における低木層や草本層に対するヤクシカの採食が多く見られ、下層植生の種構成が変化してきている（不嗜好種の増加）。
- ・スダジイ等の萌芽が高い割合で採食され、更新阻害が起きている。

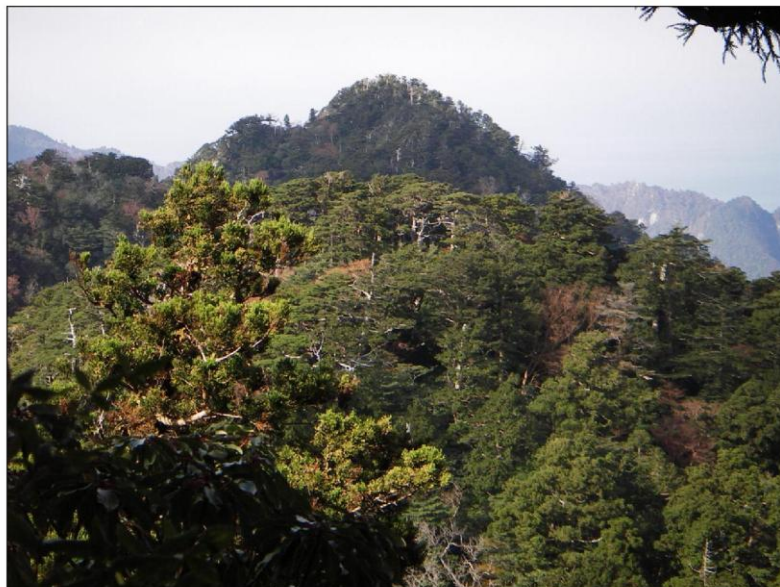
(北部)

- ・標高に関係なく、以前より低木層や草本層へのヤクシカの採食が多く見られるようになってきた。

北部の植生垂直分布調査箇所



北部の高塚山から見た標高1,350mプロットの写真



北部(標高1,250mのハリギリ大径木)



10年間の変動(北部)

- 積雪寒冷の影響を受け、屋久島の冷温帯林を代表するスギやヒメシャラなどの樹種が低標高(200m付近)から出現し、また、標高1,200m以上では、中央部程ではないが、ヤクスギやヒノキ、モミ、ツガ、ハリギリの大径木が多い。
- 低標高の二次林では、外来種のアブラギリの生育が目立つ場所がある。
- 標高に関係なく、以前より低木層や草本層へのヤクシカの採食が多く見られるようになった。

北東部地域(愛子岳登山道)における萌芽枝への被害状況



この場所は、スダジイとマテバシイが同程度の割合で生育しているが、ヤクシカによる食害の割合は、西部程多くないものの、湯泊、尾之間よりは多い。写真は、スダジイ萌芽へのヤクシカによる食害状況。